

勝海舟から始まる 近代日本

浦辺 登

定価 2000円+税

四六判・260頁

ISBN 978-4-86329-197-3 C0021

【11月下刊】

海舟が見すえていた近代日本の姿とは

幕末(1800年代)から現代(2010年代)まで、
 複雑に重なり合う歴史の局面と人間関係を、
 海舟を起点にした43人の人物相関図をもとに
 ひも解いてゆく新しい試み。

全78話

1803年のフェートン号事件を維新の始まりととらえ、
 維新の策源地・太宰府、サンフランシスコの精神病院、
 軍歌制定の狙い、1912年のオリンピック、
 夏目漱石と夢野久作、農本主義、
 山本五十六から笹川良一への手紙、
 孫文と玄洋社の関係など従来見すごされてきた史実に
 光をあてて読み直す画期的な一冊。

〈著者の横顔〉 浦辺 登 (うらべのぼる)

昭和31年(1956)、福岡県筑紫野市生まれ。
 福岡大学ドイツ語学科卒。日本の近代史を中心に研究。
 著書に『太宰府天満宮の定遠館——遠の朝廷から日清戦争
 まで』『霊園から見た近代日本』『東京の片隅からみた近代日
 本』『アジア独立と東京五輪—「ガネホ」とアジア主義』『玄洋
 社とは何者か』(以上、弦書房)など。



孫文が中華民国建国の御礼演説をした
 福岡県公会堂貴賓館

目次から

- I 勝海舟から始まる近代
 勝海舟が恐れた横井小楠と西郷南洲
 維新の策源地・太宰府
 適塾塾頭であった大村益次郎と福沢諭吉
 遣欧使節団が見たサンフランシスコ名物の精神病院
- II 海外の動きの中で考える明治
 慶応三年のキリシタン弾圧の真相
 南洲墓地の北を向く墓碑
 軍歌制定の狙いとは
 日本海海戦と日米野球
 一九一二年(明治四十五年)のオリンピック
 漱石と久作の文明批判
- III 大正は明治の精神を生かしたか
 右翼の巨頭は甘い物好き
 寺田寅彦の考える近代と天災
 アインシュタインとタゴールの願いとは
- IV 「日本人」を見失いかけた昭和
 農本主義の本質と実践
 山本五十六から笹川良一への手紙
 引揚港・博多と二日市保養所
 孫文と玄洋社との濃密な関係

【FAX: 092-726-9886】

地小出版 流通センター 取扱品 書店・帖合	勝海舟から始まる近代日本 浦辺 登 著		定価 2000円+税 ISBN978-4-86329-197-3
	冊	霊園から見た近代日本 荒俣宏氏 激賞! 朝日新聞書評にて	定価 1900円+税 ISBN 978-4-86329-056-3
ご担当者様	冊	東京の片隅からみた近代日本	定価 2000円+税 ISBN 978-4-86329-072-3
	冊	太宰府天満宮の定遠館 遠の朝廷から日清戦争まで	定価 1800円+税 ISBN 978-4-86329-026-6
	冊	玄洋社とは何者か	定価 2000円+税 ISBN 978-4-86329-154-6
	冊	弦書房 Genshobo	〒810-0041 福岡市中央区大名2-2-43 ELK大名ビル301 TEL:092-726-9885 FAX:092-726-9886 URL http://genshobo.com/ e-mail books@genshobo.com